

**研究課題：**高度蛋白尿を呈した小児 IgA 腎症重症例に対する扁桃摘出術＋ステロイドパルス療法(扁桃摘出術)の有効性と安全性の検討

## 1. 研究の目的

扁桃摘出術＋ステロイドパルス療法(扁桃摘出術)は、成人 IgA 腎症では一般的な治療とされていますが、小児の IgA 腎症では多剤併用療法の方が優先されており、特に重症の IgA 腎症について扁桃摘出術を行った患者様を多数まとめて検討した報告は少ないのが現状です。当院では小児の IgA 腎症に関して多数の治療経験があり、その中には高度の蛋白尿を呈した患者様も多いため、特に重症例に注目して本治療法の有効性と安全性を検討します。

## 2. 研究の方法

2006 年 4 月から 2019 年 12 月までに、高度の尿蛋白(尿蛋白クレアチニン比 1.0 以上)を呈した IgA 腎症に対して扁桃摘出術を行った患者様の中で、その治療開始から 2 年間以上状態の観察が行えた患者様を対象とします。診療録から、年齢、性別、体格、病歴(症状あるいは検査による異常所見の発症時期、肉眼的血尿や浮腫などの症状の有無・程度など)、病理検査所見、各時期における血中アルブミン・尿蛋白・腎機能などの血液・尿検査所見(当院初診時、治療開始時、最終受診時など)、併用した薬剤、等の情報を調べまとめます。

## 3. 研究期間

倫理委員会で承認を得られた日から西暦 2022 年 7 月 31 日まで。

## 4. 研究に用いる資料・情報の種類

長期間改善していた後に再発した方に関して上記 2. に記載したような項目を、カルテの記載および検体検査結果から調べまとめます。画像(個人情報は一切含まない)が論文内に掲載されることがあります。

## 5. 外部への資料・情報の提供、研究成果の公表

この研究で得られた結果は、医学雑誌などに公表されることがありますが、患者様の名前など個人情報は一切分からないようにしますので、プライバシーは守られます。また、この研究で得られたデータが本研究の目的以外に使用されることはありません。

## 6. 研究組織

研究機関：地方独立行政法人埼玉県立病院機構 埼玉県立小児医療センター  
研究責任者：腎臓科 科長兼副部長 氏名 藤永周一郎  
研究分担者：腎臓科 医長 氏名 大貫裕太

**7. お問い合わせ先・研究への参加を希望しない場合の連絡先**

研究に関するご質問等がありましたら下記の連絡先までお問い合わせ下さい。ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報及び知的財産の保護に支障がない範囲内で、研究計画書及び関連資料を閲覧することが出来ますのでお申出下さい。また、資料・情報が当該研究に用いられることについて患者様もしくは患者様の代理人の方にご了承いただけない場合には研究対象としませんので、2022年7月31日にまで下記の連絡先へお申出ください。その場合でも患者様に不利益が生じることはありません。

地方独立行政法人埼玉県立病院機構  
埼玉県立小児医療センター  
医事担当（代表 048-601-2200）